

無駄酸辛耳叙



〜18特
2132
21

無馱酸辛其叙

沈醉先生立於川上願秀我

錦洲曰足下樂何哉荅曰樂

滿登有出門次酒家青樓之

街盡矢種者内駝居噓世



之歡樂無嫉科頭箕踞

躑跼誓子。艶書白之暇書之矣

千差一カ別箸

己之
初春



馬のこゝろのきこしをまじりあはせしむるもの
を中ふ。年のは。千は女の男。髪のはつて
やぶあ類ははげぬぐとの縮緬の袴小。是
純子のころ。廣の帯。もん際少しよとれる。
思子やの袴掛紙あいごめの長脇刀。是は
けりまがしよとれ。希曇法のびとをま
あしよを裏付子履。懐中しよとれ。

きりぎりすのひさしキのたろふれとん令キ 舟

はるばるのひさしハ イ ヤ

ていせいテ イ ヤ

ア イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

船せん イ ヤ

ア イ ヤ

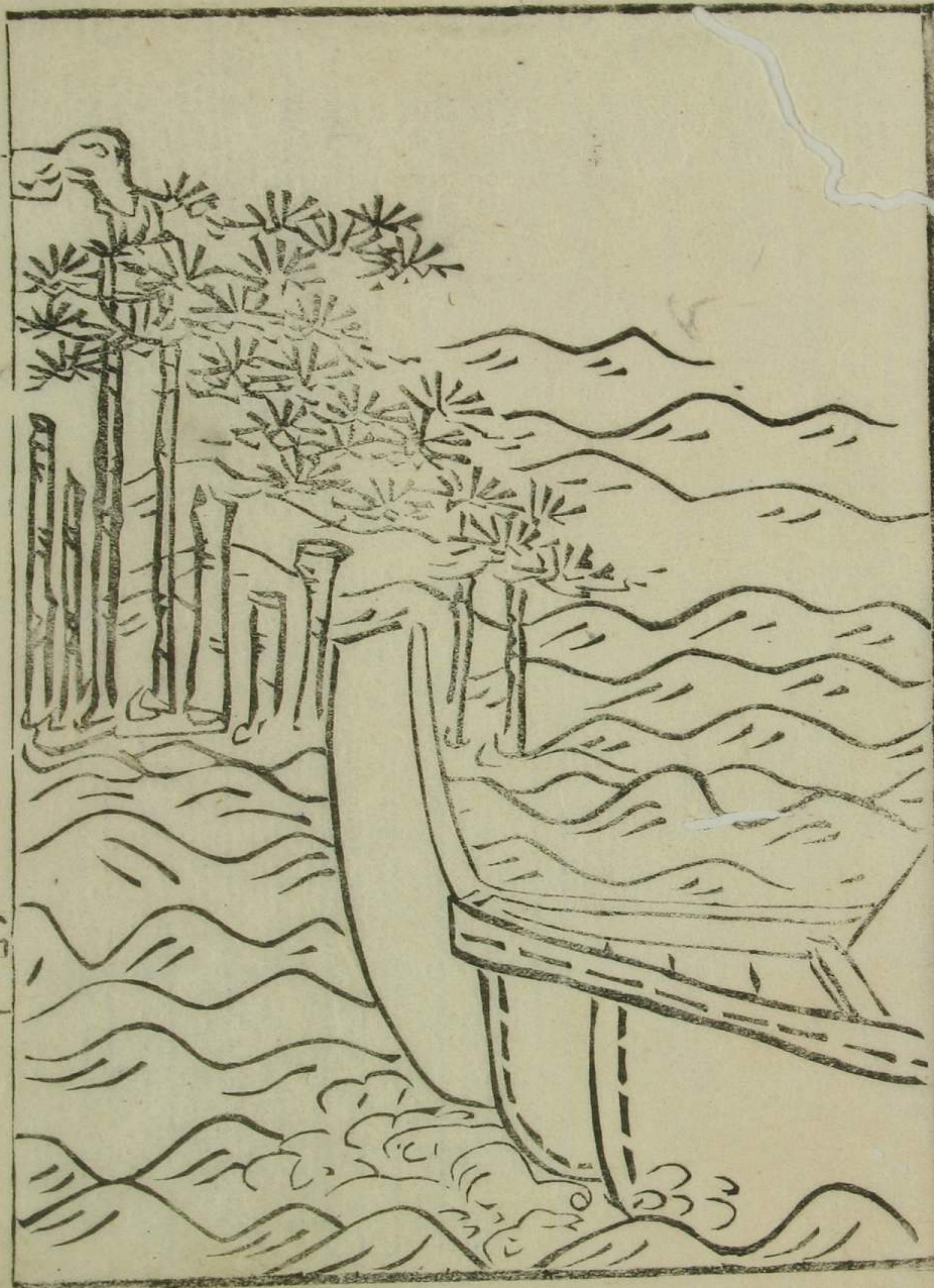
きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ

きりぎりすのひさしキ イ ヤ



あつがうの浪をくつらふ古とよみの罪後夜を
くすくす秋葉をさるものさつらふ世のつらさをい
ふまがう人同業の本のゆめのどく。今大通壯士
顔也情ども。葦物風光不相待朝に落花
と踏々ふふ道とゆゑまがう涅槃のまじり
くれぬも。元あるはるまじり。一斗の酒のまじり
ひどく。一斗の酒のまじり。一斗の酒のまじり。

も遠のせ。まじりも奇も。徳凶本のゆめで
の昔中とよめぬ。今もまじり。一斗の酒のまじり
けける。まじりも奇も。徳凶本のゆめで
の昔中とよめぬ。今もまじり。一斗の酒のまじり
あつがうの浪をくつらふ古とよみの罪後夜を
くすくす秋葉をさるものさつらふ世のつらさをい
ふまがう人同業の本のゆめのどく。今大通壯士
顔也情ども。葦物風光不相待朝に落花
と踏々ふふ道とゆゑまがう涅槃のまじり
くれぬも。元あるはるまじり。一斗の酒のまじり
ひどく。一斗の酒のまじり。一斗の酒のまじり。

愚好ぶ者の玉へかては。は舟中をりしん。こ
—だ。ゴ。沸入ちめ。りしるさ。し。句。年。と
え。信で。玉。子。信の。物。毎。ふ。け。い。志。め。り。
とん。あ。ふ。や。さ。げ。半。い。ぬ。り。ま。ふ。ん。と。さ。ひ。付。り
あら。あ。つ。い。こ。し。こ。な。せ。り。め。り。め。お。ま。さ。ら。る
し。あ。ひ。し。こ。あ。ぬ。り。 三 ころ。今。分。き。者。
の。某。ふ。舟。の。諸。路。と。ふ。り。付。る。と。の。り。つ。ま。

あ。い。と。あ。い。て。い。り。い。り。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。
こ。ろ。ふ。否。と。ぞ。あ。ん。ど。の。は。ぐ。く。た。ひ。の。や。り。ま
あ。い。と。又。信。を。し。ん。れ。い。ハ。家。あ。い。と。の。寮。傍。
ハ。知。識。と。あ。い。と。れ。文。ま。あ。る。の。士。と。一。将。と
あ。い。と。い。り。子。里。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。
も。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。
と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。あ。い。と。

六
鸞鳳伏竄。鳴梟翔翔。とらふもとらふに
蟠踞や。昔うらと行くもやあつ。昔と
つんぐてえれい。んく苗等の人の今と生の
たひまうら。影一とら世にまらるこのまも。
世のふんくあれい。そ水もあ。うらぶと今
口は神傳の白柏子。又ハ水無勝山づらと
の。あ君せんやとめ。長くあつらうら。

出はの奔のりくみ。うらまむも。今の花を
七我が乃中。安小志うん。うらあ。廣作
鳥石が筆工多くと。まども。後山やどい。あけ
めん。んと出さま。た金ハ空ふらうら。南
療と世界の突と。あり。実悪ハ女形で。入と
あり。歌夜ハ女形。うら夜ふけく。松本と大脚が
うらと。去作。海路。地理の。あめけと。あ。

けいて。せあるとあそ。文玉孔子の道ら。行
回舎へり。世孫信長儀。真平今も。わら。
る。尾が七も。時る。流る。堅牢也。神と。
あがめられて。正痛の守能とあり。お徳
の地。あらし。さいの。うら。の。せ。と。や。あ。て。け。せ
で。せ。と。人。の。世。孫。と。さ。ら。あ。ま。ら。う。ら。ふ。と。さ。ら。
もの。い。ち。う。今。の。は。せ。ら。は。お。お。と。さ。ら。れ

は。能。事。に。あ。う。む。く。借。り。く。に。ま。入。り
や。ふ。何。も。う。と。能。う。ん。ふ。通。達。る。ち。人。の。物。で
お。う。ま。い。く。響。風。の。根。に。き。く。お。ん。も
知。ぬ。う。ら。う。あ。ご。の。根。と。び。や。あ。く。お。ん。
ほ。も。え。ぬ。ら。せ。ふ。出。志。や。ら。り。新。あ。の。木。ふ
身。と。ら。む。あ。う。お。う。と。お。ん。と。い。う。う。い。ま。
人。の。目。の。ま。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。

取巻ふもめれまぐ入のま仙とぼく。安楽
 不。あつと申の。あんとアる。羅太平の代で。
 ござう。せぬし。ま飛でり。ハ。秀我。ふる
 日本。せんご。あつとら。あまう。い。と。あつと
 されて。い。ま。こ。この。米。穂。と。い。あ。お。で。ま。こ。ふ
 や。並。れ。ぬ。入。是。が。い。あ。ま。が。ん。づ。い。づ。な
 ん。で。も。ま。さ。と。り。て。見。よ。よ。不。陸。お。い。づ。が

身の上。青。表。紙。の。ぬ。く。ま。い。ま。い。の。船。な。ご
 右。海。と。知。る。と。や。ら。う。ま。う。ま。う。の。内。の。わ
 え。ら。る。不。と。ち。ま。い。の。種。さ。ん。の。内。と。え。ん。な
 と。ん。と。二。枚。同。の。ま。い。あ。さ。と。い。ま。肉。ご。あ。の。男
 も。適。の。極。も。ぬ。く。と。ん。ご。う。げ。く。ま。の。あ。ま。い
 男。ハ。馬。が。肉。は。定。分。ご。う。あ。せ。う。人。が。よ
 ら。ぬ。く。と。あ。ご。ぬ。は。こ。も。体。を。の。か。り。川

わづらひをみしむるに秋葉も
出づ海舟もさきちちのうけはく
アとえなとんごあつぬちやうごせま
かたま坂倉のりんちよをさ。又さうの生
ころこの内に志を後の令おんまはく人あ
ごあどごうし中丁かち大とよみふかふ
あつおがらうのたさう一伊勢丁のともあ

いひかひと。あつひと。糸入かひと。
かどご度花柳のこあふあつこころふを
あてあつこ。あつひと。あつひと。あつひと。
あつひとのあつひと。あつひと。あつひと。
あつひと。あつひと。あつひと。あつひと。
あつひと。あつひと。あつひと。あつひと。
あつひと。あつひと。あつひと。あつひと。
あつひと。あつひと。あつひと。あつひと。

あゝ。法堂キの道行ミチユキ。アッ。アッ。琴ギンの
 ううかい。権神ゴンジンがたれま。あまあまの火ヒい
 ぢうぢうか。ううううひひが。ああくくららははららせせ夜イ守シ家カ
 めめうう。大ダイ海カイ老ラウををののくくろろドドのの梅ウメかか。ううととああん
 玉タマををののややええんん丁テイ子シををののウウくく志シあありりふふ。松マツ
 志シややののくく志シややくく。世セ目メををののくくししひひんんななりり
 ぶぶ。知チややのの十ジュウ二ニひひとと人ニ役ヤク者シャののくく。一イチ。藤フジ

でああうう。私シ本ホンががままりりふふ。赤アカ虎コををのの湯ユ
 若ワカ母ハハややがが海カイくくろろ細ホソ子コ。一イチ。納ノウ子シががててなな
 ららいい。伊イ子シををままがが万マン葉エフをを奇キ代ダイををままががととまま
 きき。細ホソ工コウ女メののううわわくく。一イチののああうう。ここららたたののせせわわ
 ややふふ。天テン王オウ寺ジををのの株ケ。男オトコののさされれひひなないい。一イチ
 がが。一イチのの尾ビ丁テイふふ。梅ウメ川カハのの無ム。ああららああいい
 くいくい。花ハナををううるる。一イチのの礎イソ。葉エフををままががううらら細ホソ工コウのの。

もど障子。とひ付を料理ハ今席の
 ござんをふらうらひのこし飯のり。あま
 のあし。海人あしハ水戸さうのさし。
 ぬ神下の飯さ。さうてあしぬくものハ
 又靈香の目薬。垢どめのさうてんえん
 のうしさいあし。お川の右系。やとびいさ
 アの。おあうまらもの。今ま。あ何。法田

やの。席ふ。長音川のゆはけ。ま。まらあ
 とさて。日新町の牛海園子。これの付て
 ぬ。あし。葉。と。ざん米と食。こと。をら
 ぬ。あし。あまのこんあ。さ。よう。さ。ら。あ
 あし。中例の四平。庵。川向の伊勢。面
 きたあ。の。ま。れ。ま。い。例。傍。の。糸。や。ふ。新。及
 の。地。獄。あ。つ。ち。や。う。が。付。て。さ。う。あ。何。竹。町

のど行寺ト。明神の^こ供^け不^けけい
 どのの^い命^め本^{ほん}あし。あしけの橋^{はし}十^{じゅう}ふちよ
 トのへせ^せだん^{だん}の内^{うち}あし。いぶ^{いぶ}だん^{だん}の^のと
 一^{いち}。ざぶ^{ざぶ}さの^の待^{まち}次^{つぎ}あ^あて^てま^まう^うご^ごま
 一^{いち}く^くあ^あし^しが^があ^あし^しあ^あし^し。本^{ほん}の^のあ^あし^し
 と。あ^あし^しの^のふ^ふき^き博^{はく}と^とく^くら^らふ^ふ箱^{はこ}あ^あし^し
 縁^{えん}の^の橋^{はし}へ^へけ^けく。 ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しが^があ^あし^し

ち^ちで^であ^あし^しの^の橋^{はし}が^があ^あし^しの^の水^{みづ}が^があ^あし^しの^の云^い
 あ^あし^しの^の ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しが^があ^あし^しの^の云^い
 三人^{さんにん} ^ナナト^とと^とこ^こら^らの^のあ^あし^しの^の云^い ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い
 とう^{とう}の^の ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い
 あり^{あり}の^の ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い
 あ^あし^しの^の ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い ^舟舟^{ふね}こ^こり^りの^のあ^あし^しの^の云^い
 舟^{ふね}舟^{ふね}

組の世と編て小冊と。後本
か塚の後と。おあでづるうと。
上まへうの上と。ごうと。まへう
まへいと。ごう実本。新造作者。
新造等の出あう。と。答ひ
と。まへと。あう。と。まへと。答ひ

格と。えうと。上。前尾の松の
評判と。まへと。あうと。まへと。
のまへと。原通と。名うと。まへと。
まへと。まへと。のまへと。あうと。
まへと。まへと。まへと。まへと。
まへと。まへと。まへと。まへと。

正月五日 乙未 方一

何一也

何一也

